

SONIC CITY

2025 SERIES

7:00pm, December 12th (FRI),
2025

ソニックシティ 2025 シリーズ 第九演奏会
埼玉第九合唱団第96回演奏会
2025年 12月 12日(金) 午後7時開演 / ソニックシティ 大ホール

「第九」演奏会2025 日本フィルハーモニー交響楽団

ベートーヴェン
ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.19 (約30分)

Ludwig van BEETHOVEN: Concerto for Piano and Orchestra No.2 in B-flat major, op.19

～休憩(20分)～

ベートーヴェン
交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125 (約65分)

Ludwig van BEETHOVEN: Symphony No.9 "Choral" in D-minor, op.125

指揮：**出口大地**

Conductor: DEGUCHI Daichi

ピアノ：**鈴木愛美** (第12回浜松国際ピアノコンクール 第1位)

Piano: SUZUKI Manami

ソプラノ：**砂田愛梨**

Soprano: SUNADA Airi

メゾソプラノ：**山下裕賀**

Mezzosoprano: YAMASHITA Hiroka

テノール：**石井基幾**

Tenor: ISHII Motoki

バリトン：**高橋宏典**

Baritone: TAKAHASHI Kosuke

合唱：**埼玉第九合唱団**

Chorus: Saitama Daiku Chorus

コンサートマスター：**田野倉雅秋** [日本フィル・ソロ・コンサートマスター]

Concertmaster: TANOKURA Masaaki, JPO Solo Concertmaster

主催

公益財団法人埼玉県産業文化センター / さいたま市 / 公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

後援

埼玉県 / 埼玉県教育委員会 / さいたま市教育委員会 / 埼玉県吹奏楽連盟 / 埼玉県合唱連盟

協賛

株式会社タムロン

表紙作品提供

埼玉県立新座総合技術高等学校 デザイン専攻科 田倉 優

作品名「歓び」

作者コメント「背景の色のように、色々な人が神のもとに兄弟となる歓びを音の流れにのせて歌っているのを表現しました。」

【アンケートのお願い】今後のソニックシティ主催公演参考のため、アンケートへのご協力を願います。アンケートにお答えいただきました方から抽選で3名様に本日の出演者出口大地氏と鈴木愛美氏、砂田愛梨氏、山下裕賀氏、石井基幾氏、高橋宏典氏のサイン色紙をお送りいたします。右の二次元コードより、スマートフォン・タブレットからお答えください。(所要時間約5分)



▶本公演は最終楽曲が終了し、指揮棒が下りて以降は写真撮影が可能です(アンコールは除く)。撮影はスマートフォン・携帯電話をご使用いただき、自席にてご着席のままお願い致します。撮影時は周りのお客様へご配慮いただきますようお願い致します。



©hiro.pberg_berlin

指揮：出口 大地

2021年第17回ハチャトゥリアン国際コンクール指揮部門にて日本人初の優勝。同年クーセヴィツキー国際指揮者コンクール最高位及びオーケストラ特別賞。

2021年ベルリン放送交響楽団の公演にてヴラディミール・ユロフスキ氏のアシスタントを務める。ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、アルメニア国立交響楽団等の指揮を経て、2022年7月、東京フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にて日本デビューを飾る。その後京都市響、読売日本響、仙台フィル、日本センチュリー響、群馬響、神戸室内管、新日本フィル、東京都響、兵庫芸術文化センター管、大阪フィル、東京響、神奈川フィル、日本フィル、大阪響、札幌響をはじめとして日本各地のオーケストラへのデビューが続いている。2024年9月からの1年間、リエージュ王立フィルハーモニー管弦楽団アシスタントコンダクターを務めた。

大阪府豊中市生まれ。関西学院大学法学部卒業後、東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)卒業。2023年3月ハンスアイスラー音楽大学ベルリンオーケストラ指揮科修士課程修了。指揮を広上淳一、田代俊文、三河正典、下野竜也、クリスティアン・エーヴァルト、オペラ指揮をハンス・ディーター・バウムの各氏に師事。またネーメ、パーヴォ、クリスティアン・ヤルヴィ、ドナルド・ラニクルズ、ヨハネス・シュレーフリ、井上道義、沼尻竜典各氏らのマスタークラスにオーディションを経て招待され、薫陶を受ける。

第33回(2025年度)渡邊暁雄音楽基金 音楽賞受賞

公式ホームページ <https://daichideguchi.wixsite.com/daichideguchi>



©井村重人

ピアノ：鈴木 愛美

2024年11月、第12回浜松国際ピアノコンクール(小川典子審査委員長)にて日本人初となる第1位、および室内楽賞、聴衆賞、札幌市長賞、ワルシャワ市長賞を受賞。

2023年、第92回日本音楽コンクールピアノ部門第1位および岩谷賞(聴衆賞)、野村賞、井口賞、河合賞、三宅賞、アルゲリッチ芸術振興財団賞、INPEX賞受賞。第47回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリおよび聴衆賞、あわせて、文部科学大臣賞、スタインウェイ賞受賞。

これまでに、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団等、群馬交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪フィルハーモニー交響楽団、広島交響楽団等と、尾高忠明、沼尻竜典、

梅田俊明、大井剛史、ユベール・スダーン、角田鋼亮、藤岡幸夫、松尾葉子各氏の指揮で共演。今後、札幌交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、富士山静岡交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、京都市交響楽団、日本センチュリー交響楽団と共演予定。

2002年大阪府生まれ。大阪府立夕陽丘高等学校音楽科を経て、東京音楽大学器楽専攻(ピアノ演奏家コース)を首席で卒業。現在、東京音楽大学大学院修士課程に特別特待奨学生として在学中。浜松国際ピアノアカデミー、霧島国際音楽祭に参加。これまでに、稲垣千賀子、佐藤美秋、石井理恵、仲田みずほ、橘高昌男、高田匡隆、石井克典の各氏に師事。



©Satoru Masuko

ソプラノ：砂田 愛梨

東京音楽大学卒業及び同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所修了。2025年第94回日本音楽コンクール第1位および岩谷賞、増沢賞、INPEX賞、第23回東京音楽コンクール第2位および聴衆賞を受賞。サッサリ市立劇場《ドン・パスクアーレ》ノリーナでデビュー後、コゼンツァ市立劇場、ミラノ・カルカノ劇場、サルザーナ・オペラ・フェスティバル等に出演を続ける。2026年は藤沢市民オペラ《ランスへの旅》コルテーゼ夫人、群馬交響楽団《カルメン》フラスキータ、新国立劇場《ウェルテル》ソフィーなどのオペラ公演や演奏会へ出演予定。ミラノ在住。



©Yoshinobu Fukaya

メゾソプラノ：山下 裕賀

東京藝術大学卒業、同大学院修士課程を首席修了。同大学院博士後期課程単位取得。第92回日本音楽コンクール声楽部門第1位および聴衆賞、第9回静岡国際オペラコンクール三浦環特別賞を受賞。2026年はNHKニューイヤーパーラコンサートをはじめ、群馬交響楽団《カルメン》タイトルロール、京都市交響楽団《ゴジ・ファン・トゥッテ》ドラベッタ、東京都交響楽団定期演奏会ではマーラー「千人の交響曲」、ブリテン「春の交響曲」でそれぞれソリストとして出演を予定している。日本声楽アカデミー会員。令和6年京都市文化芸術きらめき賞受賞。



©FUKAYAauraY2

テノール：石井 基幾

東京藝術大学卒業、同大学院声楽専攻、サントリーホール オペラ・アカデミー第5期アドバンスト・コース修了。2020年にバリトンからテノールへ転向後、翌21年にサントリーホール主催 G.ヴェルディ《椿姫》アルフレード役でデビュー。東京・春・音楽祭に23年から出演を続けており、23年《仮面舞踏会》、24年《アイダ》(R.ムーティ指揮)、25年《シモン・ボッカネグラ》に出演し好評を博す。また、Tan Dun《TEA》では日本人初のキャストに抜擢され海外公演に出演し、26年4月にはブダペスト芸術宮殿にて欧州デビューを予定している。



©hiro

バリトン：高橋 宏典

東京藝術大学音楽学部声楽科、同大学大学院オペラ専攻修了。在学中、安宅賞、宮田亮平奨学金、アカンサス賞受賞。

第12回東京国際声楽コンクール第1位及び東京新聞賞受賞。第58回日伊声楽コンクールソ入選。2023年第3回平井康三郎声楽コンクール第2位。これまでに、日本オペラ協会《源氏物語》朱雀帝、藤原歌劇団《ファウスト》ヴァグネル、ソニックシティ新作オペラ《平家物語－平清盛－》源頼朝などで出演。コンサートでは、モーツァルト「レクイエム」、ヴェルディ「レクイエム」、オルフ「カルミナ・ブラーナ」等にソリストとして出演を重ねている。



合唱指揮：田尻 桂

桐朋学園大学音楽学部演奏学科ピアノ専攻卒。ピアノを父より手ほどきを受け、その後結城八千代、故伊達純、田近完の各氏に、指揮を故高階正光氏に師事。1984年から埼玉第九合唱団のピアニストとなり、絶大な信頼を得る。1991年第36回定期演奏会では新星日響とモーツァルトのピアノ協奏曲、1996年第46回定期演奏会では東京ニューシティ管弦楽団とシューマンのピアノ協奏曲と、それぞれの演奏のソロ・ピアニストも務めた。2004年から正指揮者となり、夏の定期演奏会では東京交響楽団や東京ニューシティ管弦楽団との共演により、『モーツァルト／レクイエム、ハ短調ミサ』『バッハ／ロ短調ミサ』『ブラームス／ドイツイレクイエム』『メンデルスゾーン／交響曲第2番「讃歌」』『ドヴォルザーク／スターバト・マーテル』『ベートーベン／ミサ曲ハ長調』等のオーケストラ付き合唱曲の大作の数々を指揮し、また冬は日本フィルハーモニー交響楽団の“第九”埼玉公演において著名指揮者との共演を合唱指揮者として支えている。

埼玉第九合唱団

埼玉第九合唱団は1973年に埼玉県民の手でベートーヴェンの「第九」を演奏することを目的に結成された。夏には合唱団主催によるバロックから現代までの様々な合唱曲に取り組み、年末にはオーケストラとの共催で「第九」の演奏を行い今年で49回目を迎えた。団員は現在120名以上を擁し、県内最大のアマチュア混成合唱団として各種音楽祭やイベントにも参加している。2020年2月からコロナ禍により練習を休止し、2022年5月、2年3ヵ月ぶりに練習を再開した。一昨年6月に創立50周年記念演奏会を開催し、ベートーヴェン作曲の「ミサ曲ハ長調」を演奏。昨年は、令和6年能登半島地震のためチャリティー・コンサートを開催、復興支援の活動を行った。今年は5回目となるモーツァルト作曲「レクイエム」他を演奏し好評を博した。「第九」を100年歌い続けることを目標に、今後もますます地域に密着した活動が期待されている。

来年の演奏会の予定
埼玉第九合唱団第97回演奏会
 2026年12月18日(金)

会場 ソニックシティ大ホール
 曲目 L.v.ベートーヴェン作曲「第九」
 他
 指揮 阪 哲朗
 管弦楽 日本フィルハーモニー交響楽団
 ソリスト ソプラノ／岡崎彩夏
 カウンターテナー／藤木大地
 テノール／小堀勇介
 バリトン／池内 豊

団員名簿 (パート別・50音順)

■ソプラノ

新井 敦子	池田 純子	伊藤 真里	伊原善理子	鶴沼美津子	宇野 聖子	大嶋佑知子	大友裕美子
大波登美子	荻原ゆかり	笠原佐枝子	蚊野 千枝	神田 啓子	北川 玲子	木村 雅子	熊澤 美雪
小林 千歳	小林 文子	今田美代子	榊 明子	佐藤 高子	佐藤真知子	佐野由起子	下 公子
鈴木 和子	鈴木 佳子	須藤 知	瀬尾 泉	高橋真理子	高松 啓子	高山 妙子	滝上 明子
田熊 裕子	寺内恵美子	道津 正子	富田麻紀子	萩原美由紀	林 昌枝	原田富美枝	原山 知美
深澤 恵	古川 達代	松倉 敬子	宮代 智子	村山ふき代	森部 陽子	矢口よし恵	吉田万利子
吉富ゆかり	吉永 裕子						

■アルト

安倍 智子	綾田千栄子	石田 章子	石島 祥子	岩崎 純子	上野喜美子	江田 直美	太田 典子
小野寺鈴江	加藤 啓子	亀田 光子	木村千恵子	草谷智恵子	小池 要子	小久保純江	小篠由岐子
斉藤 智子	齊藤真緒美	桜井由美子	佐々木伸代	佐々木由美子	笹原 浩美	佐藤 和子	佐藤むつみ
渋谷智恵美	島袋津久志	島村祐美子	菅原 美帆	高橋 桂子	田尻 美香	田保 京子	築紫マエ子
豊田まり子	中野 みほ	中村 瑞恵	西川久美子	野沢 道子	樋口 圭子	前島 清江	松井 克恵
溝口 千秋	村瀬はるみ	柳原 ゆう	山田 則子	山本 敦子	吉田 利夏	吉見 順子	渡辺美代子

■テノール

浅子 元	新井 孝治	石川 正	今村 正道	大熊 勝則	小倉 謙治	笠井 敏和	菅野 宏
斉藤 正人	塩野 博司	新祖 章	高橋 浩	滝沢 亨次	竹内 宏喜	田村 俊	中礼 和人
戸田喜久男	浜野 浩	林 昭宏	廣瀬 泰文	古川 千春	前田 拓志	増田 君広	三村 隆男
門真 宏治	山川 進	若林 祥文	和田 浩				

■バス

穴原 治	安藤 剛	池田 敏也	石井 直樹	梅山 博之	緒方 博則	小比賀 淳	加藤 哲
川島 英雄	川波 昭文	川村貢一郎	岸本 保夫	草谷 六雄	小松原正道	斎 孝則	佐藤 竝
下山 修	杉山 慎二	大門 力	高木 良二	塚越 道彦	西川 裕二	平川 直弘	百崎 直也

■指導者

常任指揮者／田尻 桂 指揮者／浅子 元 ピアニスト／鈴木 結花 ポスト・トレーナー／原田 圭、城守 香

ベートーヴェン ピアノ協奏曲第2番 変ロ長調 op.19

本日の演奏会には「2人のルートヴィヒ・ファン・ベートーヴェン<1770-1827>」がいる、といってもよいのではないか？『交響曲第9番』（通称「第九」）を書いた晩年のベートーヴェンと、『ピアノ協奏曲第2番』を書いた若きベートーヴェンと。

この『ピアノ協奏曲第2番』だが、1786年、つまり10歳代のベートーヴェンが故郷ボンで宮廷楽団員として働いていた頃に着手されたようだ。彼はボンの宮廷では、ヴィオラやオルガンを演奏すると同時に、幼いころからピアノの名手として知られていた。そしてピアニストとしての自らの力量を広く人々に知らしめるにあたっては、オーケストラを従えたピアノ協奏曲を作るという作業が重要だった。（なお文学にも少なからぬ関心を抱いていたベートーヴェンがこの頃知ったのが、「第九」の終楽章に用いられた『歓喜に寄す』である。）

またそうした「勝負レパートリー」だからこそ、この作品は様々な試行錯誤を経ることとなった。初演がおこなわれたのが、着手から10年近くを経た1795年のこと。「音楽の都」としてつとに有名なウィーンを本拠地とするようになって程ない頃の、20歳代のベートーヴェンによってなされた。しかも初演から3年を経た1798年に至るまで改訂の手が加えられた結果、着手から数えて都合4つのバージョンが生まれることとなり、ようやく今日聴くことのできるような形になった。

しかも、カデンツァ（独奏者が自身の名人芸を披露するため、従来であれば即興で奏でられる独奏部分）についても、ベートーヴェン自身が1809年、つまり彼が40歳代を迎える直前のものが残されている。これは彼の支援者であり、ピアノの弟子だったルドルフ大公のために書かれたとされているが、気の遠くなるような取り組みだ。

ただし、そうした葛藤を感じさせないほど、この協奏曲は明るさと軽快さとに満ちている。それこそ、革命の時代を生きた努力と闘いの人ベートーヴェンというよりも、彼が尊敬していたハイドンやモーツァルトに通じる宮廷文化の残照が全編に溢れている。全体は3つの楽章から成り、華やかな第1楽章、穏やかな第2楽章に続き、跳ね回るようなリズムが特徴の第3楽章と言った具合に、若きベートーヴェンの夢や希望がそこかしこに輝いている。

ベートーヴェン 交響曲第9番《合唱》ニ短調 op.125

『ピアノ協奏曲第2番』の例に見られるように、ベートーヴェンの少なからぬ作品は、最終的な完成に至るまで、気の遠くなるような歳月を経て生まれたという経緯がある。その一例が、「第九」に他ならない。ドイツを代表する詩人の1人フリードリヒ・フォン・シラー（1759-1805）が、「自由・平等・友愛」の理念をテーマに1785年に書いた詩「歓喜に寄す」に、当時20歳を目前に控えていた（つまり『ピアノ協奏曲第2番』に既に着手していた）若き日のベートーヴェンが共感を抱いたのがこの始まり。その後、この詩を用いた歌曲や序曲の構想を抱くものの、それらが実現することはなかった。

それから30年近い年月を経た1817年、ベートーヴェンはロンドンのフィルハーモニック協会から、新作交響曲の依頼を受け、構想を温め始める。その後、中断を経ながら、1822年頃に交響曲の創作に本格的に着手。翌23年には第1楽章から第3楽章までの主要な楽想を整え、1824年の初頭に全曲を完成させ、同年5月の初演に至った。なお、シラーの「歓喜に寄す」を交響曲の終楽章に加えることがベートーヴェンの中で正式に固まったのは、全曲完成のほぼ半年前で、ここに「第九」の構成が決定されることとなった。

いずれにしても「第九」は、「暗から明へ」という、交響曲のジャンルを中心にしたベートーヴェン作品の集大成といえる存在に他ならない。たとえば、「暗」の象徴のような第1楽章。この楽章の最後には、葬送行進曲風の沈鬱なメロディが大ききうねりを聴かせるが、実のところそのメロディが第1楽章そのものを形作っていたという、衝撃的なメッセージでもある。

実のところシラーの「歓喜に寄す」の内容も、この世から一度潰えた自由・平等・友愛に溢れた楽園に再び入ろう、というものであった。逆に言えば、そうした楽園を失ってしまった人間は、そうした世界を予感しつつも、それを求めて彷徨い続けなければならない。結果、時には第1楽章のように、傷つき倒れるもの。第2楽章のように、騒乱の中をかいくぐらなければならない。第3楽章でようやく平安が訪れるものの、そこにも安住することができない。

これらの、既に50分に及ぼうかという長い旅を経た後、初めて到達できる失われた楽園＝歓喜の歌の世界。だからこそ、オーケストラが演奏するのが当然の「交響曲」というジャンルに、ベートーヴェンは「声楽」を導入する冒険に打って出た。またそうした未曾有の挑戦心があったからこそ、「第九」は一つ交響曲のみならず、人類の歴史そのものを塗り替える作品となった。

オペラと音楽

2025年10月、新作オペラ「平家物語」の初演が、大宮ソニックシティの主催によって行われました。それを記念して今シーズンのコラムでは、日本フィルさいたま定期演奏会で取り上げられる作曲家と「オペラ」や「歌」の関係にまつわるエピソードをお届けします。

「声楽付き交響曲」という新機軸



神の声のイメージ。1675年。「四福音書におけるヘブライ語とタルムード」より。

「声」と「器楽」の力関係ということでは、ヨーロッパにおいては古くから「声」のほうが圧倒的に評価されていた。例えばオペラを想像してみよう。舞台の上で脚光を浴びるのは、独唱者や合唱団といった「声」を司る人々であり、「器楽」を司るオーケストラは、舞台の下で彼らの伴奏をおこなう役割に徹している。

それもこれも、そこにはヨーロッパに大きな影響を与えて来たキリスト教的な世界観が影響しているため。聖書によれば、唯一絶対の神が声を発することによって、天地が創造された。しかも人間は、神に似せて作られたと書かれていることから、人間にとって声とは、きわめて神聖な要素を宿したものと考えられてきた。だからこそ教会においても、あるいは逆に世俗のきわみともいえるオペラ座においても、そこで奏でられる音楽についてはあくまで「声」が主役、「器楽」は脇役となったのである。

ところが、フランス革命に見られるように、伝統的な価値観や社会体制がひっくり返り始める18世紀末から19世紀にかけて、徐々に状況が変わり始める。それまで脇役に過ぎなかった器楽が、主役と化す場が現れ始めた。その一例こそ、オーケストラを主体とした演奏会。しかもそこでは、元はといえばオペラを開幕するにあたっての景気づけにすぎなかった序曲（Sinfonia原義は「器楽の響き交わり（Sym-phonía）」）から派生した交響曲（Symphony）が、メインのレパートリーとなってゆく。

ベートーヴェンも、まさしくそうした傾向に倅^{きお}された一人に他ならない。実際彼の交響曲は、壮大なオーケストラの響きを通じ、聴き手に哲学的、思弁的な世界を示すかのような、深い内容を具えたものと化してゆく。しかもその集大成ともいえる第九では、独唱及び合唱という「声」が、「器楽」に従属するかのように、最後の最後でようやく用いられる。

そうした意味合いにおいても、ベートーヴェンは文字通りの革命家だった。そしてベートーヴェンを尊敬し、彼に続こうとした数々の音楽家も、「声楽付き交響曲」という異形の新ジャンルに続々と取り組んで行った。



日本フィルハーモニー交響楽団
第155回さいたま定期演奏会

2026 **5.30** SAT
開場13時 開演14時

指揮：鈴木優人 フルート：Cocomi
曲 目：メンデルスゾーン/序曲「フィンガルの洞窟」
ライネッケ/フルート協奏曲
ベートーヴェン/交響曲第6番「田園」

©Marco Borggreve ©Akinori Ito

公演詳細




日本フィルハーモニー交響楽団
第156回さいたま定期演奏会

2026 **7.3** FRI
開場18時 開演19時

指揮：西本智実 ピアノ：實川風
曲 目：サン＝サーンス/「サムソンとデリラ」より「ツバカナル」
グリーク/ピアノ協奏曲
チャイコフスキー/交響曲第6番「悲愴」

©塩澤秀樹 ©Taira

公演詳細




日本フィルハーモニー交響楽団
第157回さいたま定期演奏会

2026 **9.26** SAT
開場13時 開演14時

指揮：小林研一郎 ヴァイオリン：周防亮介
曲 目：ブルッフ/ヴァイオリン協奏曲第1番
ペルリオーズ/幻想交響曲

©山本倫子 ©JUNICHIRO MATSUO

公演詳細




日本フィルハーモニー交響楽団
第158回さいたま定期演奏会

2026 **11.7** SAT
開場13時 開演14時

指揮：広上淳一 チェロ：宮田大
曲 目：ドヴォルジャーク/チェロ協奏曲
チャイコフスキー/交響曲第5番

©Masaaki Tomitori ©日本コロムビア

公演詳細


■チケット価格 (単独券)

S：6,000円 A：4,500円 B：3,500円 Ys：2,000円 (5.30/7.3/9.26/11.7/1.23/3.20)

S：7,000円 A：5,500円 B：4,000円 Ys：2,000円 (12.18)

【チョイス券・単独券発売日】 会員12月18日(木) 一般12月23日(火)

日本フィル・ソニックシティ
「第九」演奏会2026
2026 **12.18** FRI
開場18時 開演19時

指揮：阪哲朗
ソプラノ：隠岐彩夏 カウンターテナー：藤木大地
テノール：小堀勇介 バリトン：池内響
合唱：埼玉第九合唱団
曲目：阪哲朗と小宮正安によるトーク
ベートーヴェン/交響曲第9番「合唱」

©Satoru Masuko ©hiromasa
©T. Taira ©SEGI

公演詳細
QRコード

日本フィルハーモニー交響楽団
第159回さいたま定期演奏会（バレエ公演）
2027 **1.23** SAT
開場13時20分 開演14時

指揮：山下一史 バレエ：牧阿佐美バレエ団
曲目：*印バレエ入
チャイコフスキー/エフゲニー・オネーギン〜ボロネーズ
ドヴォルジャーク/交響曲第8番第3楽章* マラー/交響曲第5番第4楽章
[シेटラウスII世/雷鳴と電光*] [シेटラウスII世/ウインク氣質
チャイコフスキー/幻想序曲「ロミオとジュリエット」 ラヴェル/「ボレロ」*

©山廣康夫

公演詳細
QRコード

日本フィルハーモニー交響楽団
第160回さいたま定期演奏会
2027 **3.20** SAT
開場13時 開演14時

指揮：藤岡幸夫 ピアノ：仲道郁代
曲目：ムソルグスキー/歌劇「ホヴァーンシチナ」～モスクワ河の夜明け
モーツァルト/ピアノ協奏曲第26番「戴冠式」
チャイコフスキー/交響曲第4番

©ShinYamagishi ©Kiyotaka Saito

公演詳細
QRコード

会場：ソニックシティ 大ホール

※演奏者・曲目変更もございます。予めご了承ください。

最大25% OFF！ セット券がお得

2026シリーズセット券価格	S席	A席	B席	Ys席
定価	36,000円	27,000円	21,000円	12,000円
6公演セット券(ホールメンバーズ)	27,000円	20,250円	15,750円	10,200円
6公演セット券(メルマガ・一般)	30,600円	22,950円	17,850円	10,200円
6公演+「第九」演奏会2026	S席	A席	B席	Ys席
定価	43,000円	32,500円	25,000円	14,000円
7公演セット券(ホールメンバーズ)	32,250円	24,380円	18,750円	11,900円
7公演セット券(メルマガ・一般)	36,550円	27,630円	21,250円	11,900円

●Ys席(25歳以下)はA席またはB席から選べます。

●車イス席(10席)をご利用の場合、Ys席と同料金になります。

〈チケットお申込み〉

ネット予約 <https://yyk1.ka-ruku.com/sonic-city-s/showList> ※ネット予約のご利用には、初めに利用登録が必要です。
ホールメンバーズ事務局 048-647-7722 (平日9:00~17:00)



JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA

日本フィルハーモニー交響楽団

第414回 横浜定期演奏会

ウィーンの
珠玉のニューイヤークンサート

ウィーンの名手が贈る

指揮・ヴァイオリン
ヴィルフリート・和樹・
ヘーデンボルク

【ヴァイーンフィルハーモニー管弦楽団 ヴァイオリン奏者】

Conductor & Violin: Wilfried Krauß HEIDENBORG



ベートーヴェン《献堂式》序曲

Ludwig van BEETHOVEN: Overture: Die Weihe des Hauses, op.121

モーツァルト《ヴァイオリン協奏曲第3番》

Wolfgang Amadeus MOZART: Concerto for Violin and Orchestra No.3 in G major, K.216

ヨーゼフ・シュトラウス《ワルツ《我が人生は愛と喜び》》

Josef STRAUSS II: Waltz of 1st Love and Joy, op.283

ヨハン・シュトラウスII世:

アンネン・ポルカ、ポルカ・シュネル《浮き立つ心》、ワルツ《ウィーン気質》、
ポルカ《帝都はひとつ、ウィーンはひとつ》、ワルツ《芸術家の生活》

Johann STRAUSS II: Annen-Polka, op.117,

Leitens Blau, op.319, "Weiser Blick" op.334, "S' gib' nur a Kaiserstadt, S' gib' nur a Wien" op.281, "Künstlerleben", op.316

2026.1.24(土) 15:00/開演 横浜みなとみらいホール
14:10/開演 300番 January 24th (Sat.) 2026 at Yokohama Minato Mirai Hall

【オーケストラ・コンサート】小宮正史氏(ヨーロッパ文化財研究家) 本日のプログラムのほか、コンサートは、14:10から15分程度、大ホールで開催。

■料金(税込・消費税別)

シグ ¥9,500 A席 ¥8,000 B席 ¥7,000 C席 ¥6,000 P席 ¥5,000 YS(5歳以下)席 ¥2,500 好評発売中

※Y席：ご高齢の方や身体障害の方や、障がい者の方へ配慮し、お席を優先的に確保いたします。お支払いは現金またはクレジットカードです。お申し込みはご自身の責任で行ってください。

※演奏者や楽団員の方には追加料金がかかります。アーティスト・メンバーズでお買い上げください。

※チケットは必ず事前予約のうえ、当日の会場へお越しください。チケットは個人販売。

二日連続公演(1月23日・24日)は、ご遠慮ください。

【主催】公益財団法人日本フィルハーモニー交響楽団

【協賛】株式会社横浜ホール

【協賛】株式会社横浜ホール

【協賛】文化庁文化芸術振興課

【協賛】横浜市文化芸術振興課

【協賛】横浜市文化芸術振興課



日本フィルハーモニー交響楽団

JAPAN PHILHARMONIC ORCHESTRA
設立発祥地：横浜 横浜

世界が認めた光学技術

タムロンは、あらゆる分野の光学製品を開発・製造する総合光学機器メーカーです。その中でも、ミラーレスカメラ／デジタル一眼レフカメラ用交換レンズは、独創的な仕様、優れた描写力、画期的なコンパクト設計、操作性の良いデザインにより、世界中で高く評価されています。

私たちはこれからも、独自の先端光学技術により、さまざまな事業分野における製品を通じて、社会の感動と安心を創造してまいります。



主な取扱い製品

ミラーレスカメラ用交換レンズ、一眼レフカメラ用交換レンズ、監視カメラ用レンズ、FA/マシンビジョン用レンズ、TV会議用レンズ、カメラモジュール、車載カメラ用レンズ、ビデオカメラ用レンズ、デジタルカメラ用レンズ、ドローン用レンズ、医療用レンズ、各種光学用デバイス部品 他



株式会社タムロン
〒337-8556 埼玉県さいたま市見沼区蓮沼1385番地
<https://www.tamron.com/jp/>

TAMRON
Focus on the Future